

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION OF JAPAN AND TAIWAN

日台稲門会



発行所：日台稲門会

会報・NL編集委員会

office@nittai-toumon.com

発行人：根本 宏児

会報 第25号

2026年度日台稲門会の会報
(第25号)をお届けします。

会長

ねもと こうじ
根本 宏児



日頃より当会の活動に対して、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨今、世界情勢が目まぐるしく変化する中で、台湾との関係も様々な機会で議論される状況となっております。トランプ政権に振り回される状況ではありますが、当会としては引き続き台湾との友好に努めていきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

さて、昨年の日台稲門会としては、総会講演会では垂大使にご講演を頂き、日中関係の様々なお話をうかがうことができました。また、秋期講演会では近藤先生に、春期講演会では石川先生に講演をお願いし、多数の方々にご参加いただきました。

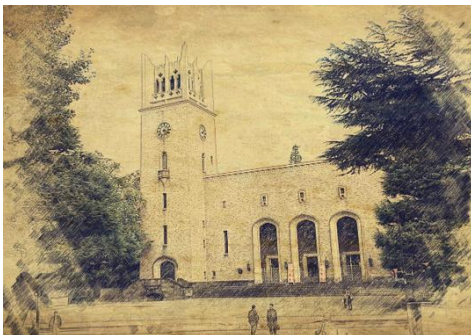
一方、昨年台湾では9月に台風18号が花蓮地区に洪水災害を発生させる事態となり、甚大な被害に見舞われることとなりました。

日台稲門会としては、稲門祭講演会の際に募金を募り、また幹事会を中心に義援金を募った結果、約25万円を日本財団窓口に送金、台北駐日経済文化代表処にご報告させて頂きました。

10月には台北駐日経済文化代表処主催の国慶節パーティに参加しましたが、年々盛大な会となり、日本と台湾との関係が更に強くなっているのを感じております。

今年度も日台稲門会として10月の稲門祭参加をはじめとして、有意義な活動の拡充に努め、また早稲田大学台湾留学生団体WTS Aとの交流・支援も強化していきたいと考えております。

今年度も会員・会友の皆様にとっても意義ある稲門会になるよう、皆さまと一緒に努力して参りますので、皆様のご指導・ご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



幹事長

おがわ ひでお
小川 英郎



『陳さんと勝太郎』の旅

私、小川が映画を創り、講演会付き上映会を開催したことは、前の会報で報告した。

簡単に復習すると、勝太郎とは菅宮勝太郎で日治時代の1907年から1943年まで台湾台東県成功鎮で漁港整備拡張に貢献。文化的には雇用した使用人(原住民)の家族の学費補助まで面倒見、現在も原住民家族子孫から慕われている。陳さん(陳韋辰)は成功鎮生まれ育ちだが、勝太郎を知ったのは十年前。だがその勝太郎調査力は学者以上で、その情熱は落ちることなく今も燃え盛っている。小川映画「陳さんと勝太郎」と陳韋辰の講演会がセットになったイベントの第一弾は昨年四月、百二十名の来場者を迎え中野区役所大イベントホール「ナカノバ」で開催された。

今回のご報告はその続き「Zoku Zoku」である。今年3月21日大阪でも開催

(1) 第28期定期総会

昨年度の活動



した！ 会場は大阪大学中之島
センター。主催者は日本台湾茶協
会。お茶を扱う人たちで、台湾も
日本も有力実力者だ。百五十人の
大阪・関西人が集まった。熱い！
これが浪速と実感。
そして翌日は名古屋でも。主催
は台日文化交流協会。華僑の
人が多く、百三十人の名古屋・中
部勢が集まった。名古屋も大阪と
は違った独特の熱気。
次は何処でやるか。九州？ 四
国？ 中国？ あるいは東北？
北海道？ 北へ行くか？
旅はまだまだ続くのである。Z
oku Zoku...
(小川英郎 作家・映画監督
東京台湾の会会長)

2025年6月14日(土曜日)、
早稲田大学大隈記念タワー(26
号館)地下1階多目的ホールにお
いて第29期定期総会を開催した。
2024年度の事業報告、決算報
告を行った後、2025年度の事
業計画、予算案に関する議案を提
示し、会場からは「異議なし」の
発言や拍手により賛同され、すべ
て原案通り承認され、また役員人
事も発表された。会員22名が参
加。

(2) 定例幹事会
原則8月を除き毎月第二土曜
日15時半から開催。事業計画を
具体的に遂行すると共に、会員・
会友にとって魅力ある有意義な会
にするために幹事一同施策に努力
した。特に早稲田大学台湾留學生
会(WTSA: Waseda Taiwanese
Student Association)との交流強
化に努めた。

(3) 主な行事
同じく6月14日(土)に、定
期総会に続いて早稲田大学大隈
記念タワー(26号館)地下1階
多目的ホールで講師 垂秀夫氏
(前駐中国日本大使)より『もう
一度台湾の問題を考える』という
演題で講演をいただいた。また
質疑応答では、最近の台湾事情に
ついて多数の参加者から質問があ
り、同時期に同氏著書『日中外交
秘録』が刊行されたこともあり、
充実した講演であった。55名参
加。

夜、懇親会を同タワー16階の
森の風で実施。43名参加。
秋季講演会は10月19日、稲
門祭に合わせて7号館307教室
で近藤弥生子氏(台湾在住ライ
ター)により、『台湾の“今”を知
る』というテーマで講演をいた
だいた。100名参加。『台湾はお
ちゃんど回っている』をはじめ、
オードリー・タン関連著書多数発
行もあり、最新台湾おぼちゃん事
情からオードリーまでと盛りだく
さんであった。その後懇親会高田
牧舎にて)100名参加。
春季講演会は2026年1月
31日に26号館(大隈タワー地下
1階)で石川公弘氏(日台稲門会
元会長、大和州市議会元議長)に
より『台湾少年工との交流80年
— 生命の尊重と死者への弔い—』
という演題で講演をいただいた。
石川氏が軍歌を熱唱、質疑応答も
活発であった。52名参加。その
後、金城庵にて懇親会。30名参
加。

土曜サロンは12月13日16
時から17時まで開催。講師は、
山田周平氏(桜美林大学教授・元
日経新聞記者—半導体に精通)演
題は「半導体最新事情」だった。
参加者22名、うちWTSA10名。
懇親会(於 そうせき) 16名参
加。

(4) 交流活動
・台北駐日経済文化代表処
2025年9月下旬、台風18

号の影響により東部花蓮で洪水災
害発生。10月19日での募金3万
円、総会時の寄付金5万円、幹事
から12万円、当会から5万円な
ど合わせて249,269円が集
まった。12月13日に根本会長が
代表処を訪問し、目録手交。事務
的には日本財団を窓口に送金。

・早稲田大学台湾校友会
11月15日に台北喜來登大飯
店にて早稲田大学台湾校友会総
会が開催され、当会からは岩永名
誉会長、小川幹事長、川村(淳一)・
跡部両副事務局長、相京・荒木各
幹事、三村前会長の7名が参加。
遠州稲門会を始め、日本各地稲門
会が多数参加、全体としては14
6名が参加。台湾校友会会長が呉
昕陽氏から鄭世維氏に交代。岩永
当名誉会長より呉会長に「(お父
様の)呉東興様の時代からお世話
になった」旨、労いと感謝を述べ
た。(今回、田中総長は所用につき
欠席)

・三台会(日本台湾交流三田会)
2026年3月14日幹事会終
了後、三台会と合流し、早稲田
キャンパスツアーを開催、『村上春
樹ライブラリー、演劇博物館、会
津八一記念館』等を見学。(ガイド
は元WTSA幹事の候宇任氏が担
当)
2026年5月14日早慶定期
ゴルフ(習志野CC)早二名、
慶13名参加。団体戦早稲田勝利。

10月6日秋季早慶定期ゴルフ予定(習志野CC)

・早稲田大学台湾留学生会 (WTS A)

2025年12月19日の忘年会に小川幹事長、相京・跡部幹事参加。2万円寄付。26年度新会長は、林子恩さんに決定。

・他稲門会との交流会

行政書士稲門会、12月14日に新宿稲門会30周年祝賀会に日台稲門会として小川幹事長、北川原・黄幹事参加。

(5) 広報活動など

・『会報』と『ニュースレター』
『会報第24号』は2025年6月14日に発行。(年1回)
『ニュースレター』は秋季号発刊。

(6) 2026年度人事変更
新任幹事 荒木 賢吉

(7) 総会記念講演

垂秀夫氏 (前駐中国日本大使)



出所：垂氏 HP より

演題『もう一度台湾の問題を考える』

私は、1985年に外務省へ入省し、台湾に二度駐在、2020(23)年は駐中国日本大使を歴任した。台湾との交流、とくに高校の修学旅行誘致に尽力したと思っている。現在、立命館大学等で兩岸関係を研究し、台湾の主要政治家とも長年の信頼関係を持つ。私は時々、中国が一番恐れる男と紹介されることがあるが、そうではなく、日本で一番中華圏に知り合いが多い男と思っている。

日本では「中国が台湾へ武力侵攻するか」が議論されることが多いが、それは単純化しすぎだと思う。中国は、武力侵攻、平和的統一、グレーゾーン(海上封鎖・サイバー攻撃・浸透工作)の三手段を準備しているが、現状では武力侵攻の可能性は高くないと思っている。理由は、台湾との国力の差が過去より現在、現在より将来の方がさらに大きいため、いま行動するのは拙速だからである。また侵攻が長期化すれば外資が中国から逃げ、習近平政権が不安定化するリスクがあること、軍の汚職問題、国際社会の台湾支持の高まりなどもある。そのため、むしろ中国は、台湾社会に浸透し内部から弱体化させる「静かなる侵攻」に重点を置いている。事実、台湾ではスパイ事件が多数発覚し、頼徳政権の対中強硬姿勢は社会の分断を招いている。

台湾では「米国は本当に助けるか」「国軍は戦えるか」「民進党政

権は信頼できるか」という“三つの疑い”が広がり、毛沢東の統一戦線論に沿う形で中間層が中国に取り込まれやすい状況が生まれている。中国は武力ではなく、時間をかけて台湾の“石垣の石”を抜き、内部崩壊を誘う形の「平和的統一」を狙っていると思われる。日本の政治家は、台湾有事を「戦争」に限定して理解しているのは間違い。海スクを踏まえた助言を台湾に行うべきである。現状、台湾のエネルギー政策は理想論に偏り、原発停止やLNG基地建設の遅れは重大な脆弱性につながっている。日本は雰囲気的な「親台」ではなく、日本の国益を基軸に台湾との関係を考えるべきだ。

日本の国益を考えたら、台湾との付き合い方はおのずから決まってくる。私は、決して親台湾ではないし、親中国でもない。むしろ、日本国民の税金で養ってきてもらった以上、親日は当たり前である。

(橋本紀明 記)



講演後、みんなで記念撮影

垂氏との思い出

岩永康久 いわながやすひさ



駐台時代、日本人会の件で垂氏(前駐中日本大使)には、いろいろお世話になりました。その中で私が記憶に強く残っているのは、地震により倒壊した日本人学校再建でした。

1999年9月21日、マグニチュード7.6の大地震が台湾中部を襲い、台中日本人学校も倒壊してしまいました。

李登輝総統は、日本関係の子供達が学びの場所を無くした事を憂慮され、臨時の学び舎(エンゼル幼稚園)をお世話いただくと共に、海から離れた高台・秀山里に、新たな校舎用地を手配頂きました。突貫工事で2001年2月には、素晴らしい校舎・運動場が完成し、その開校記念に李総統も参加頂きました。

当時、私が台湾日本人会会長、垂秀夫氏が日本台湾交流協会総務部長をしていました。垂氏は、学校再建を陰で支えてくれました。当日、三人(李登輝総統、垂氏、岩永)で台北より訪問したわけですが、新校舎完成を喜ぶ子供達を膝に抱っこし、再建を祝いました。

1977年に理工学部建築学科を卒業し、79年に建設工学博士課程前期を修了した荒木と申します。昨年の台湾校友会総会への参加を機にご推薦を頂き、幹事を務めることになりました。台湾については、幼少期は、王貞治氏やジュディ・オンさんなど台湾出身の著名人に親しみを感じ、親日家で食文化も魅力的な台湾に興味を抱いていました。最近では、早稲田大学芸術学校での非常勤講師時代



新幹事就任挨拶 荒木 賢吉

あらき けんきち

第4章 香港・台湾～ もう一つの中国問題



引用：『日中外交秘録』第4章表紙より(株)文藝春秋)
写真：右から垂氏、岩永、李登輝総統

懐かしい思い出です。
(岩永康久 日台稲門会名誉会長)

に台湾出身の学生と接したことや、現在のコンサル業務で台湾の方が所有する不動産を扱った経験から関心を持っていましたが、実際に訪れたのは昨年初めてでした。本年3月には、台湾校友会での釣りを中心とした3泊4日のツアーに参加しました。深夜高雄から出港して大漁を経験、「天使花園」で釣果を味わい、「大鵬灣飯店」ホテルに滞在し、「南州糖廠」での土窯料理、金魚養殖場「阿岳金魚」の見学など多彩な体験をしました。趣味の「らんちゅう」に関連し、日本のらんちゅうの歴史や審査基準について説明する場面もありました。東港ではヨットでのグルメや名所巡りを楽しみ、大鵬湾の橋が開く特別な瞬間にも立ち会う事が出来、大変感銘を受けました。その他、皆さんと夜市や朝市での食歩き、ホテルでの台湾式お茶会など、文化体験も豊富でした。ツアー後は一人で延泊し、幹事のご配慮で「東港東隆宮」寺院や来年の祭りに向け建造中の「焼王船」、台湾レンガ構築物などを見学し、「安倍晋三元総理の記念碑」を訪れ帰国しました。4日間を通じて台湾の人々の親切に深く感謝し、微力ながら、今後は台湾の方々のお役に立ちたいと思っておりますので、宜しく、お願い致します。



マグロ釣りツアー後の
「天使花園」での懇親会

春期講演会(2026・1・31)

いしかわ きみひろ

講師 石川 公弘氏
(日台稲門会元会長、大和市議会元議長)



演題「台湾少年工との交流80年―生命の尊重と死者への弔い―」
冒頭、石川公弘氏より、講演会に会場された第十八代台湾総督・長谷川清海軍大将の子孫にあたる西村治美様(孫)と西村恵美様(ひ孫)の紹介があった。

石川公弘氏は、昭和17(1942)年、街がシンガポール陥落の旗行列で沸く中、日米交換船で帰国した商社マンであった母親の弟か

らミッドウェー海戦の真実や大東亜戦争の行方を冷静に見通す会話を耳にし、日本の敗戦を予見する内容に衝撃を受けた体験を持つ。小学校の校長を務めていた公弘氏の父、明雄氏は、関東大震災の「朝鮮人狩り」に立ち向かうなど差別を嫌う人格者であり、後に海軍の要請で高座海軍工廠における台湾少年工の寄宿舎舎監を務めることとなった遠因だろう。

台湾少年工は昭和17(1942)年から募集され、教育・給与・将来の航空技術者としての道が開かれるという好条件から、多くの優秀な若者が志願した。長谷川総督は差別の禁止と将来の台湾への帰還を条件に送り出し、延べ八千五百人が日本に渡った。彼らは航空機生産に従事し、高座工廠では戦闘機「雷電」の製造に貢献した。(石川氏より、当時、少年工達が寄宿舎から工廠までの行き帰りで歌っていた戦時歌謡の紹介があった。♪愛国行進曲♪大東亜決戦の歌♪海の進軍♪月月火水木金金♪台湾軍の歌)

少年工の命は非常に重視され、移送時は潜水艦を避けた東シナ海回りの安全な航路が取られ、空襲時も優先的に避難させられた結果、生存率は99・4%に達した。また、戦時下であっても上官が戦死者を悼む姿が見られるなど、人間としての絆や敬意が強く意識されていた。昭和20年7月に少年工が空中爆雷で亡くなった現場には

海軍技師・早川金次氏が私財を投じた慰霊碑や少年工達の組織「台湾高座会」が寄贈した「台湾亭」も建立され、追悼の文化が受け継がれている。

終戦により彼らは志半ばで帰国したが、その経験は台湾の工業化の基礎となり、次世代を育て、後の経済発展や民主化にも寄与した。戒厳令解除後は元少年工と関係者の交流も再開され、長い年月を経て絆が回復された。

(跡部靖夫・記)



少年工に非常に慕われた
大和正也大尉 (中央)



講演会当日、
少年工の制服を
着た石川公弘氏

(参考)
昨年6月22日に台湾協会主催の講演会で、少年工だった東俊賢

氏(年齢95歳)が台湾から駆け付け、『海軍台湾少年工の歴史——戦中戦後の回想録及び未知の台湾史』という話をしてくれた。学校では厳しい先生も、プライベートでは優しく、しっかり勉強も身に付いたと話されていた。当時の歌を歌ったら、参加していた皆さんも一緒に歌いだした。さすが湾生とこちらも感動した。少年工を通じた台湾と日本の絆というものを感じた。

(橋本紀明 記)



換気機能を発揮した軍歌斉唱



優秀な技術者の集団帰郷

石川明雄氏の大なる貢献

わたなべ
渡邊 義典
よしのり



プラザ合意(1985)後の急激な円高で日本企業が海外生産拠点を求めざるを得なくなった時、人件費が安く技術力も高く、日本語も通じる台湾が注目された。一方、政治的自由化(1987年戒厳令解除)に伴う外資規制も緩和されたことで、台湾に進出する日系企業が増えたところ、私は、台湾駐在を始めた。営業で台湾各地を回っていると、すっかりした技術を持った日本経験者だという人たちが働く中小企業がたくさんあることに驚いたが、当時はその理由はわからなかった。しかし、帰国後、日台稲門会(旧関東日台稲門会)で台湾少年工の話をして石川氏(元日台稲門会会長)から聞いて、そのいきさつが分かった。戦時中、日本では航空機を作る人が不足するようになり、それを補うため台湾から優秀な中学生を日本に呼んで製造の仕事させた。日本でも田舎では高校に行くことは簡単ではなかった時代。台湾から来た少年工は、高座海軍工廠で一定年数働けば、工業専門学校(現工業高等専門学校)の卒業資格を与え、という条件で台湾の少年たちを選抜した。台湾の学校で

1・2番の頭のいい生徒が海軍工廠で働けば上級学校の卒業資格が得られるということ。少年工たちに勤労のご褒美として夜間学校へ通わせた。少年工も、お金がないという理由で進学をあきらめていたが、日本に行けば上級学校で学べるということを知って応募したのである。

受け入れる日本側もそうしたことを十分知っていて、向上心の強い子供たちをしっかりと人物によつて指導しなければならぬとして、神奈川で校長先生をしてもられたお父様(明雄氏)に寮監の役割を乞うた。有名な学校の校長から寄宿舎の寮監である。勇気がいると思った。しかし、優秀な生徒に見合う優秀な指導者として石川氏は子供たちを大切に育て上げた。



父(石川明雄氏)
出所：台湾新聞

そしてその子供たちが戦争終結後帰国して、日本留学の誇りをもつて生きた。そして日本に行ったことがない地元の人たちに日本の生活、接した日本人たちのことを話した。その結果として、台湾での親日感が地方でも高まった。



少年工の40棟の寄宿舍
出所：大和市高座海軍工廠と
台湾少年工

石川氏(父)は、寮監として台湾の子供たちを自分の息子と同様に扱って大切にしたからこそ、親日の人たちが多くなったのである。そういった意味で石川氏の貢献は大であったと思う。戦前、上級学校に進学できる人は日本でも20%であり、日本でも進学は難しかった。ことほど左様、台湾人で日本に留学できる人は0・2%だった。今でいえば、エリート中のエリートの台湾少年工がもし、日本で虐待をうけていたなら、台湾に戻っても日本留学を名譽に思うことがなかっただろうし、自身が経験したことを周囲の人たちに話すこともなかったであろう。元少年工の周囲に親日の人たちを増やした、そういう意味では、石川氏の功績は大きいと感じた。あり台で一緒に過ごした石川氏の台湾少年工の話聞いて胸が熱くなる思いがした。

(渡邊義典 当会副会長)



善徳寺境内に建立されている
「戦没台湾少年の慰霊碑」
出所：大和市高座海軍工廠と
台湾少年工



石川公弘氏著書「二つの祖国を生きた台湾少年工」
出所：Amazon.co.jp

WTSA

(早稲田大学台湾留学生会)

林子恩 (2026年度会長)



こんにちは。早稲田大学政治経済学部2年の林子恩(リン・エニャ)です。2026年度早稲田台湾留学生会(WTSA)の会長を務めさせていただくことになりました。私は台北で生まれ育ち、日本に留学しました。日本で生活する中で、同じ台湾出身の学生同士が気軽につながれるコミュニティの大切さを強く感じています。WTSAは長年活動が続けてきた団体であり、私自身もその温かい交流に支えられてきました。今年度は、そのようなWTSAの良さを大切にしながら、より多くの学生が安心して参加できる環境づくりに努めていきたいと考えています。また、台湾人同士の交流だけでなく、日本や他国の学生、他団体との交流もさらに広げていきたいと思っています。今年度は、新歓、春旅行、合宿、説明会など、さまざまなイベントを企画しております。さらに、SNSでも多くの方に楽しんでいただけるような内容を発信していく予定です。まだ至らない点



早稲田大学台湾留学生会
Facebook より



早稲田大学台湾留学生会
Facebook より

日本と台湾をつなぐ科学の物語

未来を探して――

傅馨儀



出所：自由時報

ここ数年、台湾の半導体産業やスタートアップのニュースを目にする機会がぐっと増えた。日本企業との連携や共同開発の話題も多

も多いですが、会員の皆さんと一緒に、より良いWTSAを作っていけるよう努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

く、「日台協力」という言葉は、日常のビジネスの一部になりつつある。けれども、こうした関係は突然生まれたものではない。少し視点を広げてみると、日本と台湾はこの1世紀にわたり、かたちを変えながらも、ずっと世界の科学技術の最前線に関わり続けてきたことに気づく。その原点のひとつが、「未知への挑戦」だ。

その象徴的な存在が、日本の南極観測船「宗谷」である。1950年代、日本はまだ戦後復興の途中にあった。それでも人々は、遠く離れた南極という未知の大地に目を向けた。「宗谷」は南極観測のために改造され、氷に閉ざされた極地へと向かった。厳しい寒さと、想像を超える自然環境。決して楽な航海ではなかった。それでも観測隊は観測を続け、世界の科学に貢献した。その姿は、日本が再び世界に向かって歩き出した象徴でもあった。「宗谷」は、海を調べる船というより、「南極」という未知に挑む船「だったのである。

一方で、台湾もまた「海とともに生きる島」として、独自の歩みを進めてきた。台湾大学や台湾の国家科学及技術委員会（NSTC）などの政府系研究機関によって運用されてきた「海研1号」や、その後継である「新海研1号」は、

海洋研究を支える重要な存在だ。これらの研究船は、海の中で何が起きているのか、地球環境はどう変わっているのかを静かに観測し

続けている。たとえば、海流の変化や海底の地形、生態系のバランス。こうした研究は、一見すると私たちの生活から遠いように感じるかもしれない。しかし実際には、気候変動やエネルギー問題など、私たちの未来に直結するテーマばかりだ。台湾の研究は、目立たないながらも確実に世界へ貢献している。

こうして見てみると、日本の「宗谷」と台湾の「海研1号」「新海研1号」は、それぞれ違う分野に見えて、実は同じ方向を向いている。「まだ見えないものを知りたい」という思いである。そして今、その挑戦の舞台は大きく変わってきた。かつては南極や海だったフロロニアは、いまや半導体や宇宙、AIといった最先端の分野へと広がっている。台湾は世界有数の半導体技術を持ち、日本は材料や装置、基礎研究に強みを持つ。この関係は非常に自然で、お互いに足りない部分を補い合える理想的なパートナーだ。実際に、多くの企業や研究機関が協力し、新しい技術を生み出している。さらに、スタートアップの分野でも動きは活発だ。台湾のスピード感と、日本の技術力や信頼性が合わさることで、これまでにない発想が形になり始めている。

思い返せば、南極に向かった「宗谷」も、静かに海を調べ続ける台湾の研究船も、出発点はとてもシンプルだった。「まだ知らない世界

を見てみたい」という気持ちだ。その気持ちは、時代が変わっても消えることはない。むしろ今、より強く求められているのかもしれない。これから先、日本と台湾はどこへ向かうのだろうか。半導体や先端技術の分野で、さらに深く協力していくことは間違いない。そしてその先には、アジアから世界へ新しい価値を発信していく未来がある。

海から始まった物語は、いまだ大きく広がっている。そしてその続きは、これから日台が一緒に描いていく。

傳馨儀 (Elsa Fu)
(早稲田大学国際経済法博士後期課程／台湾弁護士／台湾腐敗防止委員会委員／当会前幹事)



台湾の海洋探測船「新海研一号」



あいきょう こういち
相京 浩一

台湾校友会に参加して



半導体および人工
知能科学リーダー
育成プログラム
(2025 TechGICS)
で



南極越冬の
タロとジロ



日本の南極観測船「宗谷」

2025年11月14日(金)

台北の樺慶川菜餐廳で、台北稲門会主催の前夜祭から始まりました。日台稲門会からは、岩永名誉会長、三村名誉顧問、小川幹事長、跡部副事務局長、相京幹事、荒木次期幹事の計6名が参加しました。現地駐在員中心の台北稲門会メンバー、台湾校友会鄭総幹事、日本各地から集まった稲門会の校友、台湾に留学している現役の早稲田大学学生と楽しく懇談し、遠州稲門会青島副会長リードによる紺碧の空を歌い、お開きとなりました。

その翌日、15日(土)、メインイベントの早稲田大学台湾校友会総会が、台北喜來登大飯店(シェラトン・グランデ台北ホテル)で開催され、早稲田大学校友会萬代晃代表幹事にご臨席いただきました。稲門会台湾校友会本部は、早稲田大学校友会本部より15名、台北稲門会より15名、日本各地からの稲門会より46名(遠洲、足立、足利、小山、館林、大田原、千代田、徳島、東京23区、三島、行政書士、三重、日台、沖縄)と多くの校友会メンバーの参加があり、総勢146名が一堂に会する盛大な会となりました。

(2026年) 日台稲門会からは、岩永名誉会長(前夜祭と総会)、三村名誉顧問(前夜祭と総会)、小川幹事長(前夜祭と総会)、川村淳一副事務局長(総会、観光ツアー)、跡部副事務局長(前夜祭と総会)、荒木次期幹事(前夜祭と総会、観光ツアー)、

相京幹事(前夜祭と総会、観光ツアー)の計7名が参加しました。呉昕陽会長が式辞で開会され、校友会萬代晃代表幹事からの挨拶のあと、台湾校友会より各代表と記念品の交換がありました。日台稲門会は、岩永名誉会長から台湾校友会呉昕陽会長に記念品を贈呈しました。同時に台湾校友会次期役員の投票があり、呉昕陽会長の後任には、現総幹事の鄭世維さんが選出されました。

記念写真撮影や楽しい懇親の時間を過ごし、遠州稲門会青島副会長リードによる校歌斉唱では、校友ひとりひとりが左手を腰にあて右手を高く上げ、元氣よく校歌を3番まで斉唱しお開きとなりました。あらためて日本と台湾の深いつながりを感じることができた台湾校友会総会でした。

11月16日(日)は、台湾校友会娯楽活動「宜蘭観光ツアー」に川村淳一副事務局長、荒木次期幹事と相京幹事の3名が参加させていただきました。台北喜來登大飯店ロビーに集合し、台湾校友会の鄭世維総幹事が同行され、大型バスで宜蘭設治記念館、羅東林業文化園區、金車カプランウイスキー蒸留所、逸香樓角板山公園に向かい、昼食は宜蘭米樂餐廳で海鮮料理、晚餐は逸香樓餐廳で北京ダックに舌鼓を打ちました。前夜祭から総会、観光ツアーと続く3日間は、とても有意義な時間を過ごすことができ、

今年(26年)もぜひ、参加させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。(相京 浩一 当会幹事)



台湾校友会総会



ぎらん 宜蘭観光



秋季講演会(2025・10・19)

講師 近藤 弥生子



出所：講談社

(台湾在住ノンフィクション作家) 演題 『台湾で暮らして驚いた日本との違い』

今回、台湾政府で広く使われている Sindo を用い、参加者が講演中に質問を共有できるアプリを使用してみたい。私は、2011年に台湾へ移住し、台湾企業で働き、一旦日本に帰国した後、離婚後に再び台湾へ戻り台湾人と再婚。台湾での生活を通じ、日本との文化差を強く実感した。台湾では職場でも家庭でも生理がタブー視されず、産後ケアセンターが充実し、母親は専門スタッフの支援のもと十分に休養できる。また台湾社会は赤ちゃん連れに非常に優しく、公共交通でも積極的に助ける文化が根付いている。ジェンダー役割も固定されておらず、接待や雑務が女性に偏る日本との違いを感じた。

門 台湾では政府がベビシッター制度を管理し、資格・犯罪歴確認を経て登録された人のみが利用されるため、幼児への性加害がほぼ起きていない。こうした暮らしやすさの背景には、政策決定層に一定数の女性やマイノリティが存在することがある。台湾はクォーター制導入により国会の女性比率が40%を超え、ジェンダー平等指数はアジアでトップである。

(2026年) オードリー・タンはIQ180と称されるが本人はそれを否定。社会課題を市民と共に解決する「ソーシャルイノベーション」を推進してきた。総統杯ハッカソンやオープンガバメント、Join、Taiwan など、市民参加型の政策

形成を実現し、少数派の声を拾い上げる仕組みを整えてきた。台湾のシビックハッカー文化goも、マスクマップ開発などで社会を支えている。台湾社会には「鶏婆精神(おせっかい精神)」があり、不公平を見れば自ら動き、知識を共有する文化がある。

台湾は多民族社会で、多様性が日常に根付いている。月経博物館の設立や月経用品の無料配布など、ジェンダー政策も進んでいる。これらの変化はスーパーヒーローが一気に作ったものではなく、市民や政治家がバトンリレーのようにつなぎ、積み重ねてきた成果である。オードリー・タンは「ひびのあるところに光は差し込む」と述べて、ひびは誰も気づくことではないので、気づいた人にとってそれはチャンスであるというメッセージであると考え、気づいた人が行動することの重要性を強調した。

(橋本紀明 記)



講演会場

土曜サロン(2025・12・13)

講師

やまだ しゅうへい
山田 周平



(桜美林大学教授・元日経新聞記者)

演題 『半導体最新事情』

山田教授には2023年2月18日に土曜サロンで台湾半導体産業について講演をしていただいたが、当時、最新半導体がコロナウイルスより三十分の一の大きさであること(半導体3ナノマイクロ、コロナ90ナノマイクロ)、半導体生産過程は、企画↓設計↓前工程↓後工程↓販売の分業構造でTSMCは前工程、後工程に特化。TSMCは世界シェアの93%を握るため、中国が台湾を責めたから台湾だけでなく、世界の産業がストップしてしまう等々を知った。3年後の今回の講演は、世界の半導体産業の最近の動きについて解説していただいた。日台経済関係の構造変化は、かつては「日本↓台湾」への技術供与・製造委託が中心だったが、現在は台湾企業

の対日投資が拡大し、双方の補完関係へと発展。半導体・電子部品など製造業だけでなく、IT・スタートアップ・消費分野にも広がってきた。TSMC熊本工場が代表的なように台湾企業が日本に向かう理由は、米中摩擦で中国依存のリスクが増大。中国市場の成長鈍化・政策不透明感から、日本を新たな安定市場・生産拠点として再評価。サプライチェーン再編の中で、日本の技術・人材・市場の魅力が再浮上。これによって、日本側は台湾の半導体・ICTの強みを取り込み、日本の産業競争力を補完する効果も期待される。スタートアップ投資や小売・サービスなど、消費分野でも協業が進展。しかし、経済連携が深まるほど、台湾海峡危機の影響は日本企業に直撃。企業は「全社的なリスク管理」が必須に。例えば、サプライチェーンの多元化、在庫戦略、拠点分散など。日台の補完関係は今後さらに強まると指摘。ただし、地政学リスクを無視した「楽観的な連携」は危険と山田教授は、強調された。日本の強みは、素材・装置・精密加工。一方、台湾は半導体製造。相互に補完し合う関係になってきているのが現状であると。教授の話聞いていて台湾人の発想のよさと日本人のきめ細やかさが結びつければ、最先端技術でも世界に伍してゆけると思った。

(橋本紀明 記)

最近の経済ニュース

リユウ
ヤンフ
劉彦甫出所：
東洋経済新報社

劉彦甫さん（W T S A 出身）の署名記事を紹介します。内外経済、国際情勢、特に台湾に関しては他社の追隨を許さないほど、詳細な解説をしています。是非ともご覧門ください。

稲 詳細は、左記サイトを参照して台ください。

● <https://toyokeizai.net/list/author/3355>

なお、最新の報告は左記のとおりです。

☆ 6月6日付〈台湾現地リポート〉「エージェント型AIの急拡大で「CPU」が主戦場に、エヌビディアの攻勢にアームやインテルどう動くか

☆ 6月5日付〈台湾現地リポート〉「まだまだ部材が要る…」エヌビディア次世代サーバーへの期待と綱渡りの部材供給

☆ 6月4日付〈台湾現地リポート〉「世界最大級のIT展示会

今年も変わらぬ焦点はAIの「インフラ」と「サプライチェーン」

（劉彦甫 当会幹事、東洋経済新報社記者、一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程在籍）

CYBERSEC 2026

（台湾資安大會）に参加して

あとべ
やすお
跡部 靖夫

このイベントへの参加は三年連続。今年は「RESILIENT FUTURE」をテーマに台北南港展覽二館で開催された。総統は外遊からの帰国と重なり開会式に出席できなかったが、副秘書長が代読したメッセージでは「サイバーセキュリティは国家安全そのもの」という強い方針が改めて示された。またAI関係者も出席し、台湾が官民のみならず同盟国とも連携し、特にAI時代の新たな脅威に対処する姿勢が印象づけられた。法務部調査局の陳白立局長に

よる基調講演は、台湾のサイバーセキュリティの現状を理解するうえで示唆に富む内容だった。陳氏はデジタル空間を陸・海・空・宇宙に続く「第五の領域」と位置づけ、行政機能だけでなく、水道・電力などの重要インフラ、金融、交通、医療、通信、さらには企業のサプライチェーンまで含む「社会全体のレジリエンス」確保を中心テーマとして掲げた。台湾では国家安全会議、国家安全局、国防部、調査局、刑事局、デジタル発展部など複数機関が連携し、民間との協力も含めた統合的な防御体制を構築している。

特にAPT攻撃は政府機関や重要インフラ、国防産業、ハイテク企業を標的とする一方、一般企業



プレゼンテーション：
社会全体の強靱性



講演する陳白立氏
（法務部調査局長）

や個人のIT機器が踏み台として悪用されるケースも多く、社会全体の防御力向上が不可欠とされた。近年はランサムウェア・アズ・ア・サービス（RaaS）の拡大や、攻撃側によるAI活用が顕著で、偵察・脆弱性探索・攻撃自動化が高度化している。内部不正や人的ミスに加え、サプライチェーン経由の侵入も増加しており、OT環境への攻撃は社会生活に深刻な混乱をもたらす。またSNSを通じた偽情報拡散や認知戦は、選挙や感染症対策など社会心理を揺さぶる手段として利用されている。

調査局は「デジタル免疫細胞」として、平時の監視による予兆検知、インシデント発生時の迅速な調査・原因究明、法的責任追及を担う。さらにダークネットや暗号通貨を利用した犯罪、C&Cサーバー追跡など国際協力による越境犯罪対策にも注力している。重要インフラ事業者とのMOU締結、鑑識実験室の整備とISO認証取得、政府調達における産地偽装摘発、半導体技術の営業秘密保護など、実務面での体制強化も進む。偽情報拡散のプロセス分析も示され、技術対策に加え社会全体のリテラシー向上が不可欠とされた。

総じて台湾は、法執行・技術開発・国際連携・産学官協力を統合し、強靱で信頼できるデジタル社会の構築を着実に進めている。

（跡部靖夫 当会幹事 副事務局長）

台湾関連本の紹介

今回の会報で講演、寄稿された方の本を紹介します。

☆タイトル『日中外交秘録』

(文藝春秋社 25・6刊)

著者 垂秀夫(たるみ ひでお)
価格 2750円(税込)



出所：
Amazon.co.jp

日中外交を見ていると裏があり、原因がわからないことも多いが、そうしたことを具体例を出しながら説明しているため、非常わかり



コンピュータの
守護神(?)
「乖乖」



会場内にて
旧交を温める

やすかった。例えば、日本通の王毅中央政治局委員兼外交部長は、中国国内では反日派として振る舞わざるをえないため、日本での評判は悪いが、同様にアメリカ通の楊潔篪(ようけいち)元外交部長氏は、反米派と見られるようにふるまわざるをえないため、アメリカよりも対日交渉の方がやりやすいとか。

尖閣列島での中国漁船に海上保安庁船への体当たり事件とその後の不可解な解決策は菅(かん)首相が原因だったとか。外交には表の政府間外交交渉だけでなく、個人的友人ルートによる裏交渉が大切だとも。垂さんも、(昔、周恩来首相をして、自国にもあのような男が欲しいと言わしめた高島益郎(外務省条約局長(当時)のよう)に)中国から「自国(中国)にもあのような骨太の外交官が欲しい」と言われていたのではないかと思った。

☆タイトル『台湾はおばちゃんで回っている?!』

(だいわ文庫 22・12刊)

著者 近藤 弥生子

価格 858円(税込)



出所：
Amazon.co.jp

とにかく明るく、周りのことに振り回されることなく、楽しく自由にやろうという考えが本一杯に詰まっているため、読んでいて楽しかった。この本を読んでいた昔の台湾生活を思い出した。

☆タイトル『オードリー・タンの思考 IQよりも大切なこと』

(ブックマン社 21・2刊)

著者 近藤 弥生子

価格 1786円(税込)



出所：
Amazon.co.jp

近藤さんの講演を聞いていて、オードリー・タン氏はいろいろなことを発想する人がなあと感じた。たとえば、今では当たり前になった(SNSでの炎上をさけるため)👍のみ表示して、バッド記号を表示しないようにするとか。それにより、読者の反応に悩む必要がなくなるとか、講演中に質問をSNSで出してもらい、視聴者のいいね回数が一番多い質問順にならば、講演者もいいねが多いものから回答するとか。発想が非常にユニークであった。この本を読みながら自分で何ができるか、考えてみたいと思った。

☆タイトル『旅して学ぶ台湾』(岩波ジュニア新書26・6刊)
著者 劉彦甫(リウウイェンフ)他(赤松美和子・洪郁如・胎中千鶴・山崎直也 共著)
価格 1034円(税込)



出所：
Amazon.co.jp

今や高校生の修学旅行先一番となった台湾。治安がよく、親日的でもあり、学校として安心できる国であり、親も心から送り出しやすい場所とみている台湾だが、意外に知らないことも多い。その台湾を歴史から最新のジェンダー平等や、半導体産業などについてわかりやすく解説した本です。当会幹事の劉彦甫氏も執筆メンバーの一人として関わっています。第5章「民主社会の実現と続く葛藤(1992)」を担当し、現代台湾の政治・社会・国際関係を専門的かつ平易に解説しています。是非ともご覧になってください。

徒然 台湾

台湾、日本、世界のことを、みなさんから集めたものです。

◎台湾の生活水準の伸び 28 倍！

台湾がどのくらい豊かになったか、IMFのデータを使って、1980年と比べた。日本は、80年より名目GDPは4倍(\$ベース)になったが、物価差を調整した一人当たりの実質的な生活水準(購買力平価)は6倍。米国は、GDPは二倍になったが、生活水準は7倍。結局、生活水準アップでは、日米の間では45年間で差はほとんどない。米国は豊かになったように見えるが、物価上昇が激しすぎて生活水準は思ったほど上がっていない。一方、日本は、デフレで物価が上がらなかったため、生活水準ベースではほぼアメリカと同じ伸びだった。昨年、高校の友人が仕事でアメリカに行った時、転んで足を折って入院した。稲治療費は7万5千ドル(1千万円台強)だったとか。異常である。収入が多くても出るものも多い。例外は台湾。台湾のGDPは28倍と伸びたが、物価が大きく上がらなかったため実質生活水準は28倍と高くなった。

購買力平価について、インドや中国で生活した経験からすると品質は日本と大きく違っているため、購買力平価をそのまま信用できないと思った。しかし、日米台の品質は、肌感覚でほとんど同じであるため、この三カ国に対して購買力平価で判断するのは正しいと思っている。トヨタと同じだけの利益を出すTSMCの存在も大きい。

い。(トヨタ売上48兆円、最終利益5兆円。TSMC売上13兆円、最終利益5兆円)

◎やってほしいな、NHK台湾語講座

昔、海外駐在では現地語学習が必要だったが、最近は世界中、英語でほぼ通用するため、中国語を除けば現地語を学ぶ人は少ない。特に「アラビスト」という専門家が存在するほど難しい言語とされるアラビア語の場合、一般学習者は極端に少ない。UAEから帰国した2007年前後がアラビア語学習の最盛期で、当時はテレビやラジオ講座も開講したが、視聴者減少によりまずテレビが打ち切れ、ラジオもとうとう今年2026年3月で終了となった。ラジオアラビア語講座のテーマ曲は「Musata」だった。昔、青島幸男氏は、これを「悲しき六十歳」として作詞し、坂本九に歌わせた。若い男性が奴隷身分の女性との結婚を夢見て40年以上かけて資金を貯めたが、再会した時には彼女は六十歳になってしまったという内容で、青島氏の作詞家としての才能が感じられた。彼は母親をテーマとした本『人間塞翁が丙午(ひのえうま)』では、彼の才能のすごさを感じした。もし彼が、政治家でなく作家に専念していればもっと多くの名作を残したのではないかと今でも残念に思っている。

ところで、日本人に人気の高い

台湾の言語が放送されないのは残念でならない。面白い言葉であり、学んだ内容をすぐ現地で実践活用できるというメリットもあり、人々との交流にも役立つ。中国語(華語)がEメールとすれば、台湾語はLINEのような気楽さがある。旅行先として台湾が人気であることを踏まえても、NHKに台湾語講座を放送してもらいたいなあと思っている。

◎台湾と歌舞伎

昔、京都の南座や大阪で歌舞伎をよく観た。最近、映画館でシネマ歌舞伎『曾根崎心中』をやっていた。天満屋お初は四世坂田藤十郎、平野屋徳兵衛は中村鴈治郎が演じていた。2009年4月の歌舞伎座公演を収録した映像で、この親子共演(公演)は、決定版とされているそうである。昨年、東宝の『国宝』を初日に観た時、ヒットしそうだと思ったが、今回の『曾根崎心中』は、東宝にしてやられた本家、松竹が威信をかけて上映したように感じられた。観ながら、この映像に字幕が出れば、外国の視聴者も歌舞伎を理解するのではないかと感じた。台湾駐在中の1997年に中正記念堂國家音樂廳で歌舞伎が公演された。最初は『藤娘』(三代目中村芝翫)だった。そしてもう一つ。連獅子だったかもしれない。歌舞伎の説明は、欧米人の男性が日本語でやっていた。

日本語での説明なら日本人にやらせればいいのと思って聞いていたが、彼は欧米公演のとき、活躍する人物だった。台湾語、華語が分らないので日本語で説明していたようである。なお、実際の上演時には舞台のすそに華語の字幕がついていた。

上演後、会館外で友人を待っていたら、黒塗りの車が我々の前で止まった。誰だろうと思つてじつと見ていたら、車の窓を開けて手を振ってくれた。行政院長になったばかりの蕭萬長氏だった。外交官時代、蒋介石總統から記憶力の良さを褒められたという逸話を台湾の高齢者から聞いていたので、そんな方が、我々だけに手を振ってくれたことがとても嬉しかった。台北では、庶民と政治家の行動エリアが重なるので顔を見かけることもよくあった。アジア危機の原因を日本人会での確に説明してくれた江丙坤氏もその一人だった。

◎いよいよ台湾パイナップルが身近に

数年前、中国が台湾のパイナップル輸入を禁止したとき、東京タワー下で開かれた台湾フェスティバルで台湾パイナップルを買った。お土産に買って帰って女房に台湾パイナップルは美味しいから、家でも買ってと言ったが、近くのスーパーでは売っていないと言われてあきらめた。しかし、最近

になったため、家では毎週台湾パイナップルを食べている。普通捨てる硬い芯も台湾パイナップルはやわらかいので食べられる。中国輸出と較べて、日本輸出は当初、単価的にも低かったと思うが、末端のスーパーまで浸透してきた今日、中国向け売り上げマイナス分をかなりカバーしているのではないかと思います。食材の海外での小売価格は本国の3倍というのが相場だが、台湾パイナップルの場合、台湾では55元(三百円)、日本では六百円で二倍程度だから、円安にもかかわらず、かなり、頑張っている(無理している)のだと思う。ただ、逆にこれより高かったら消費は減るのだから日本のマーケットは厳しい。駐在時いつも買って食べていたマンゴスチンを日本に一時帰国時に千疋屋でみた。台はその値段の高さにびっくりした。値段さえ対応できれば、台湾のマンゴスチン、マンゴ、ライチ、釈迦頭、青パイヤは美味しいのでスーパーの店頭で並べられると思う。ただ、レンブ、ドラゴンフルーツ、スターフルーツはサクサクしすぎていてちよつと・・・。

◎台湾人の不安

台湾の対日感情は、日本台湾交流協会や台湾民意基金会など複数の調査で70〜76%と極めて高い。一方、韓国、中国、米国の好感度は3〜11%と低い。かつては戦前の日本統治と戦後の蒋介石

石政権での状況を比較した結果、相対的に日本の方がよかったため、日本評価は高いと考えていたが、現在はそんなに単純じゃないようである。強い親日感情の背景には、台湾が中国から攻撃を受けた際、「最後に頼れるのは日本しかない」という切実な期待があるように思われる。米国は、歴史的には他国紛争への介入しても最後は撤退、それを繰り返してきた。南ベトナム撤退(1975年)、カンボジア・ラオス支援の放棄(75年頃)、第一次湾岸戦争後のクルド人支援撤退(91年)、シリア撤退(2019年)、アフガン撤退(21年)など、米国に頼りすぎる危険性を歴史が示している。台湾の人々はその点を理解し、米国を全面的に信用していないのではない。そんな気持ちで世論調査にでたのではないかと思った。昔、評論家江藤淳氏が宰相宮澤喜一論で、『宮澤は銀座のタクシーだよ。後からついていくと、ヒュツと尻を振って自分だけかわして行っちゃうだろう。ついていった者はえらい目に遭うんだよ』(Voice 主要論文集)という政治家の言葉を紹介していた。台湾の人も、アメリカは宮澤氏と同じだと思っているかもしれない。それが逆に日本の好感度アップにあらわれているような気もする。また中国に対しても、香港国家安全法(20年)による「一国二制度」の事実上の破棄で決定的になった。もし中国があると

27年(2047年まで)約束を守り続けていけば、台湾の態度も変わったかもしれない。たった27年間待てなかったため、中国は自ら信頼を失ったと思う。台湾国民は2・28事件の記憶もあるため、香港での一国二制度破棄で、中国への不信は決定的となったような気がする。だからこそ「最後の頼みは日本」。悲願である。日本は台湾に何ができるのか、それが今問われているような気がする。

◎戦争と駐在員

海外駐在は、紛争に巻き込まれる覚悟をもっていないといけない。国外脱出できるのは固定資産を持たない企業の駐在員であり、現地に資産を持つ企業の社員は逃げる選択肢がない。1992年の湾岸戦争時、ある日本企業は本社人事部が、駐在事務所に退避勧告を出したが、その後、現地政府があまりよく思っていないという情報が入ってきたため、社長が単独で現地入りし、関係改善に努めたということがある。本来なら社長を補佐すべき現地事務所所長が日本に避難し、社長が現地にいるという変な状態になった。ただ、これはどちらの行動が正しいということではなく、緊急時にはそうした全く逆の判断や行動もありうるということである。台湾で1996年の民選初総統選挙があった時、私がいた企業では、日本本社から特別な指示はなかったが、台北現

地では噂レベルの退避情報は飛び交った。2011年の東日本大震災時、アメリカは、日本在住の自国民に退避勧告とホウ素剤を配布したが、アメリカは緊急時対応に慣れているのだなと思った。日本と同じ島国の台湾は、侵略された場合、国民が海外脱出する可能性は、日本同様に低いと思う。そもそも逃げられないのである。攻撃されれば戦うか、国内の安全地帯に避難するしかない。難しい問題であるが、台湾に駐在する日本人も覚悟が必要かもしれない。

◎イラン戦争

AIに質問した、「アメリカはイラン戦争で勝てるか?」と。結果は、軍事的には優勢だが、完全勝利は極めて難しいと。昔、大学の授業で、『なぜ、世界最強のアメリカは、ベトコンに負けたのか?』との質問があった。教授の答えは、アメリカは(圧倒的武力で短期間に)勝たない限り、負けのスタンス。一方、ベトコンは負けられない勝ちのスタンス。戦争が長期化した結果、戦費増大、国内厭戦ムードの高まりで最終的に、アメリカは撤退することになった。その後中南米の経済混乱も発車をかけ、悪夢の70年代を経験した。逆に日本は有利になったが、プラザ合意(1985年)後、対ドル二百四十円↓二百円↓百五十円台と円高になった。同時に、国内では、低金利による株高↓バブ

◎AI体験と将来

1987年頃、AIが話題に
なった。当時はif-then
ルールだったが、その後これといった成
果がでないままWindows 95、イ
ンターネットの登場によっていつ
の間にか忘れられてしまった。し
かし、ここ数年、OpenAIによる

ChatGPT、またAIという言葉
が賑わいだした。私も、勉強を始
めたが、実に面白い。AIの中の
Google NotebookLMでは、特定
の資料のみからデータをまとめて
くれる。例えば、高市首相の現状
を、天国の松下幸之助や稲盛和夫
はどう思っているか?そんな質問
をすると、大川隆法の「霊言シリ
ーズ」のようにイタコ(=AI)が
話すのである。また『1990年
代の台湾駐在員時代の歌を作っ
て! できれば繁体字で』と指示
すると歌詞が自動的に出てくる。
そしてその歌詞をコピーして、
SunoのLyrics欄にペーストした
ら、音楽が流れる。タイトルは、
《台北那些年(台北での年月)》。

松山機場の風
吹著陌生的夏天
忠孝東路的霓虹
照亮加班後的臉
便利商店的燈火
凌晨還溫暖不滅
一碗熱騰騰牛肉麵
陪我度過思鄉的夜
傳呼機聲音響起
還沒有智慧手機的年代
啊——台北的那些年
雨落在淡水河邊
我們青春留在中山北路
也留在永遠回不去的昨天
啊——九〇年代
卡帶不停旋轉

從日本來到台灣 才知道什麼叫做思念

私は華語が身に付いていないの
でこれがこなれた文かどうかはわ
からないが、作成時間はほんの数
秒だった。

AIの次は何かと考えた。私が
欲しいのは、モニター機能だけで
なくAIも内蔵されたメガネであ
る。50年ほど前に自分の声色が
出来るカシオのボイスシンセサイ
ザーというおもちゃがあった。ま
た動物と会話できる(とされた)
タカラのバウリンガルもあった。
それらが、メガネに内蔵されたら、
ドリトル先生になれるかも。今の
半導体進歩の速さ(高度化、極小
化)を考えると可能かもしれない。
ただ、検索機能のAIは、自信たっ
ぷりに平気で間違った解答をする
ので、自分が良く分かっているこ
とを質問すると間違いに気づくが、
そうじゃないと信じてしまう。い
い例ではないが、中東時代のイン
ド人スタッフ(非マネジャー)の
ようだと考えた。質問すると堂々
と答えるので赴任当初は信用する
が、そのうち間違いだと分かる。
本人は自分が無能だと思われたく
ないので、堂々と言っているにす
ぎないのだが。そのうち、彼の言
うことをうのみにせずに確認程度
の意味で聞くことが普通になった。
今のAIの検索はそのレベルだと思
ったらしい。ただし、これが1
年、2年と時間が経つと大幅に進

化するのでは、心配はいらないかも
しれない。今の会社では、199
0年代にロータス123、一太郎
を使いこなせなかったら、仕事が
出来なかったのと同じ状況のよう
である。またAIは、他人の本や
論文の要約には役立つが、自分の
文章を要約された状態で読むと、
いつも物足りなさを感じる、大事
なことが抜けているような気がする。
しかし、AIとはそんなもの
だと思って、活用すれば意外に役
立つかもしれない。

親台派だった故中川昭一氏の世界 恐慌防止への貢献と名誉回復

故中川昭一氏と言えば、親台派
だったが、今年、Facebookに酩酊
会見の真相が出た。IMFへの融
資一千億ドルの効果を生AI
(Copilot)に訊いた。中川氏が調
印したIMFへの一千億ドルの融
資効果はどうだったかと訊いた。
それによると、リーマンショック
直後だったため、IMFは融資能
力を一気に1.5倍に増強したが、
それでも当時は、貸し出し資金が
足りない状態だった。日本の融資
により融資能力を約31%高めた。
これにより、新興国の通貨危機・
資本流出を止める緊急融資を迅
速に実行できるようになった。当
時、アイスランド、ハンガリー、
ウクライナ、パキスタンなどは国
家破綻寸前だったが、IMFの資
金が枯渇していれば、同時にデ
フォルト(→世界恐慌級の危機)

号が起きた可能性が高いと。それが日本は「危機の火消し資金」そのものだったと。当時の日本も新興国が破綻していたら、円高がさらに進み、輸出が壊滅。結果として日本企業の倒産が続出という最悪のシナリオとなっていたはずである。

IMFの資金供給で新興国が持ちこたえられ、日本も輸出市場が守られたという自国防衛の側面もあった。またこれにより日本の国際的地位も大きく上がった。IMF専務理事は、日本の拠出を「過去最大の支援」として高く評価した。当時、リーマンショックとその後遺症でアメリカやEUも動けず、唯一、即座に巨額資金を出せたのが日本だけだった。これで危機時の頼れる国、日本の国際金融の中心プレイヤーとしての存在感が高まった。しかし、酩酊会見報道にかき消されて日本国内では一千万ドルの歴史的成果はほぼ無視された。これが本当なら、今後、中川氏の功績評価と名誉回復がなされなければならないと思う。

◎世界のスポーツ選手の年俵

もうすぐ、サッカーワールドカップが始まる。2002年の日韓共同開催のワールドカップでは、東京駅構内でイングランドの国旗を背中に巻いて歩いているイングランドの若者を見て、ワールドカップを実感した。ところでサッカー選手の年俵は、日本は3千万

円（J1平均）、一方欧州は、英国4億1千万円、ドイツ2億6千万円、イタリア2億4千万円、スペイン2億2千万円、そしてフランス1億8千万円、日本より3倍！これでは、日本選手がヨーロッパへ行くは当然であろう。台湾プレミアリーグは百万〜三百万円。これでは生活できないため、働きながらサッカーをやるセミプロだとか。

一方、野球では選手年俵は日本5千万円（支配下選手平均）、一方米国は8億5千万円。17倍の差！これでは、次はメジャーと考えるのはサッカーと同様である。台湾野球では一千〜一千五百万円だが、当然年々上昇とのこと。ラグビーでは、日本（リーグワン）千五〜三千万円（企業所属で待遇込み）、イングランド3〜4千万円、フランス（5〜7千万円、南半球一千五〜三千万円だとか。ラグビーでは、むしろ日本でプロ契約している選手は億単位の年俵である。日本も決して低くないと思う。世界的な選手が日本に集まる。これはいいことではないかと思う。台湾はプロ化していないので、代表クラス二百五十万〜六百万円だとか。

◎蔡英文前総統、やばすぎと投稿

総統退任後も精力的に活躍している蔡英文前総統。自身のSNSに「YBSG」と投稿したと6月7日付の産経新聞に載っていた。

LGBTの新しい潮流かと思って読むと、なんと日本語の「やばすぎ（YBSG）」の略だとか。マイケルジャクソンのBAD（強く、かつこよく、なめられない）顔負けの新語（？）である。台湾では流行のきざしがあるが、日本に再輸入されるか。

◎最新AI開発停止（暴走対策？）

2022年11月26日の江正殷早大教授の講演で、ジョージ・オーウェルの「1984」の話が出たが、最近、世界でも『2001年宇宙の旅』の人工衛星搭載のHAL9000や「ターミネーター2」のスカイネットのようなAI自身が学習し人間を超える「クロード・ミユトス」が出てきたようだが、懸念した製造元のアンソロピック社が開発停止するような動きがあるとのこと。あたたかも1978年のカーター大統領による中性子爆弾製造中止の時と同じように・・・今後どうなるか。

◎台湾カタツムリレース

APによると、台湾の花蓮から南へ50キロメートル行った鳳林鎮では、地震後、スローライフを町の特色にして観光回復を狙い、カタツムリ競走を開催。世界中から注目を浴びているとか。面白かったのは、村の高齢化率が20%になって困っているという記事だった。日本では全国平均で高齢化率は、30%で鳳林鎮をは

るかに超えている。今度、花蓮に行ったら、カタツムリ競争を見てみたい。

第102回 箱根駅伝結果報告

12月末に取手地区稲門会の森会長のご厚意で新春箱根駅伝情報を西本誠（前事務局長）がいただきます。森会長は優勝を狙えと予想していましたが、結果として早稲田は4位でしたが、往路で総合2位と森会長の期待に応えました。来春は青山学院を破って優勝するような気がします。頑張れ、我々が早稲田競争部！

区間	(km)	氏名	学年・学部	出身校	タイム	区間 順位	総合 順位
1区	21.3	古森ナツブ直希	2 社科学	早慶	1:00:58	7	2位集団
2区	21.3	山口智規	4 スポーツ科	学法石川	1:05:47	4	3
3区	21.4	山口峻平	2 スポーツ科	佐久長聖	1:01:54	8	3
4区	20.9	鈴木琉風	1 スポーツ科	八千代松陰	1:00:01	1	2
5区	20.8	工藤慎作	3 スポーツ科	八千代松陰	1:09:46	3	2
6区	20.8	山崎一吹	3 スポーツ科	学法石川	0:58:31	6	2
7区	21.3	間瀬田純平	4 スポーツ科	鳥栖工	1:03:58	12	4
8区	21.4	堀野正太	1 スポーツ科	須磨学園	1:06:09	16	4
9区	23.1	小平敦之	3 政経	早慶	1:07:45	2	4
10区	23.0	瀬間元輔	2 スポーツ科	東農大二	1:09:40	10	4

2026 年

春の日台早慶ゴルフ対抗戦

2026 年春季早慶ゴルフ対抗戦が、5 月 14 日(木)習志野カントリークラブ・キングコースで晴天の下、開催されました。早稲田 11 名、慶応 13 名、総勢 24 での開催となり、団体戦は僅か 4 打差で早稲田が勝利することが出来ました。

次回秋季早慶ゴルフ対抗戦は 10 月 6 日(火)習志野カントリークラブ・クイーンコースで開催の予定ですので、参加希望者は是非幹事までご連絡ください。皆様の是非積極的な参加をお待ちしております。

幹事・根本

Email: koujio50857@gmail.com

Tel: 090-1114-9866

事務局より

ひろたに みさ
広谷 光紗 (副幹事長)

■新入会員紹介(入会順、敬称略)
令和 7 年度の入会者を報告いたします。

入会順(敬称略)

渡邊雅司、永森利彦、安達満
橋本典生、荒木賢吉(計 5 人)

かわむら じゅんいち
川村 淳一(会計担当、副事務局長)

■今年度会費納付のお願い

日頃日台稲門会の活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

2026 年度の年会費(5 千円)も原則として、日台稲門会の左記のいずれかの銀行口座にお振込みをお願いいたします。

今年度も、会の活動を積極的に展開してゆく所存ですので、皆様方のご協力をお願いいたします。

◎みずほ銀行宛て振り込みの場合

支店名…六本木(店番 053)

口座番号…(普)4448937

口座名義…日台稲門会

(ニツタイトウモンカイ)

◎郵便局宛て振り込みの場合

加入者名…日台稲門会

口座番号…0013008169805

郵便局の場合は、通信欄にもお名前前の明記をお願いいたします。誠に恐縮ではございますが、振込手数料はお振込みされる方のご負担にてお願いいたします。

ご不明の場合は、左記までお問合せください。

junichi.kawamura.di@gmail.com

あひへ やすお
跡部 靖夫(副事務局長)

Facebook グループ

「日台稲門会」ご利用のお勧め
※グループ URL

<https://www.facebook.com/groups/nitaitounon>

日台稲門会では、情報発信ツールとしての下記「サイト」に加えて、幹事会有志を「管理人」とした「Web サロン」として、Facebook グループ「日台稲門会」を運用中です。日台稲門会関係者(会員・会友・OB などの)の交流を目的としておりますので、会員・会友の皆様によるご投稿をお待ちしています！

●公式 HP

<http://nitai-toumonkai.com/>

●FB ページ

<https://www.facebook.com/nitaitoumonkai/>

編集後記

昭和 33 年に行われた早慶レガッタが、中学か、高校の教科書に載っていたことを覚えている。大雨でボートの中にも水が入ってきた。早稲田は雨を無視してとにかく、漕いだ。慶応は、水が入ると交代ですくった。結果、早稲田は沈没、慶応の勝利となった。当時の自分は、どちらがいいか、わからなかったが、今なら、勝てばいいではなく、全力を出仕切る早稲田の方に男気を感じる。今年 4

月にボート部の友人から偶然連絡があった。そして誘われて、50 年ぶりに早慶レガッタを観た。彼との再会も 47 年ぶりだった。当時は戸田競艇場でやったが、さすがに墨田川の迫力は違った。戸田の頃は、二千メートルを競ったと思うが、現在は 3750 メートル。当時と作戦も全く違うだろう。ゴールの桜橋の上にいると遠くの粒がだんだん大きくなってくる。オールを一かきするとボートがすっと前にでる。まるで水面を走るアメンボのようだった。クルーも戸田時代よりものびのびしているように見えた。ボート部の連中とは、青梅マラソンに毎年一緒に出た。最初はこちらが早いのだが、途中でいつも抜かされた。彼らは、瞬発力だけでなく持久力もあったというのが当時の記憶だ。今はドローンを通じてスマホでレースを同時中継でも見られる。早慶対抗は、中高、学部(理工×医)、女子、OB、コックスフォア、スカル、第二エイト、第一エイトとバラエティに富んだ。台湾でもドラゴンボートレースに何回か行ったが、銅鑼の音がすごかった。ボートレースは夏の訪れを感じさせる。東京スカイツリー駅から歩いて 5 分でゴール会場に着く。4 月後半であるため、暑くも寒くもなく、絶好のボード日和だった。みなさんも来年行ってみたいかがですか。

(風)